

津久見市の人口の現状

I. 人口減少および少子高齢化

- 国勢調査によると、本市の**総人口は減少の一途**をたどっており、減少率は年々高まっている
- また、年少人口・生産年齢人口ともに減少の一方、老年人口は増加で推移しており、**少子高齢化**の傾向が年々顕著になっている

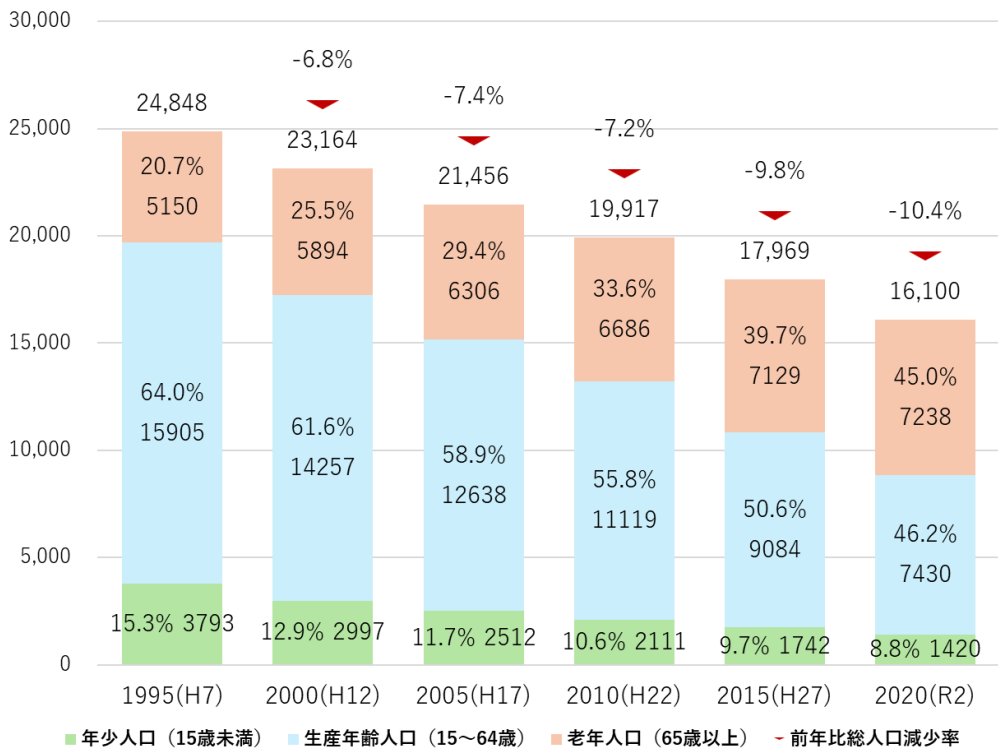


図1 津久見市の総人口の推移
(出典：総務省「国勢調査(H7～R2)」)

- 過去20年間はどの年でも**自然減・社会減**を示しており、これらが人口減少および少子高齢化の主な要因と考えられる
- ※ 自然減：出生数よりも死亡数の方が多いこと
- ※ 社会減：転入者数よりも転出者数の方が多いこと

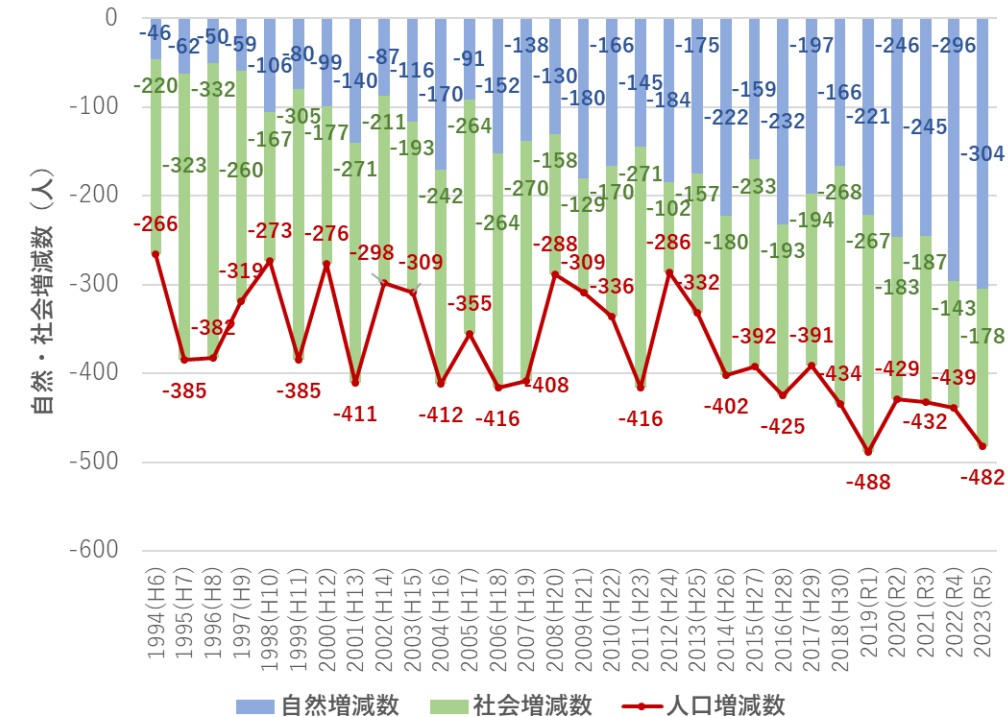


図2 津久見市における人口の自然・社会増減の推移
(出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(H7～R6)」)

II. 自然減を招く出生率の急降下と未婚率の急上昇

- 本市の合計特殊出生率は、2021年までなだらかな上昇を見せており、2021年には県平均を上回る1.62を記録したが、2022年からは一転、**値が急降下**するとともに、**出生数も右肩下がり**となっている
 - 2023年に至っては2005年以降で最も低い**1.24**を記録した
- ※ 合計特殊出生率：1人の女性が一生に産む子どもの人数

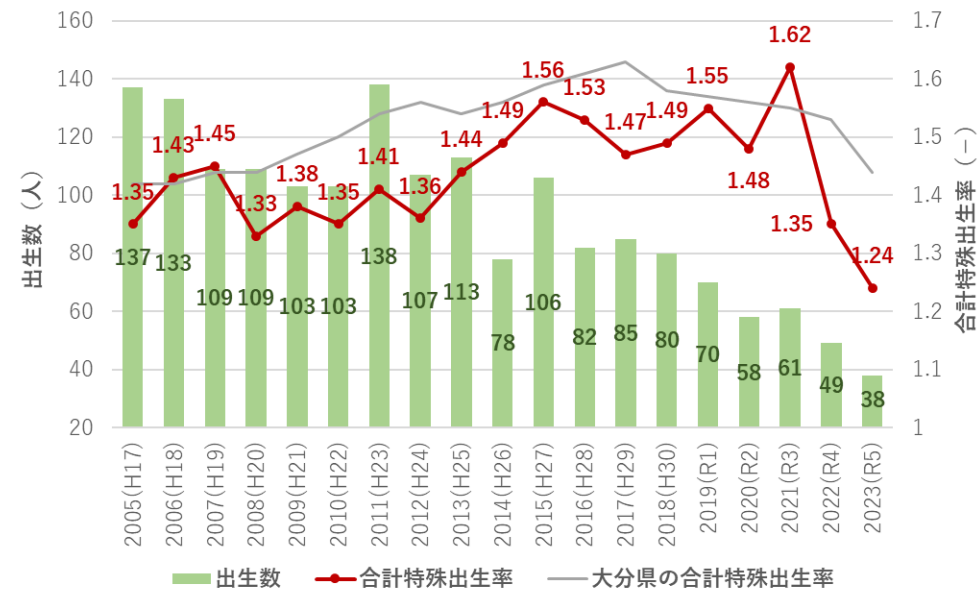


図3 津久見市における出生数及び合計特殊出生率の推移
(出典：厚生労働省「人口動態統計(確定数)(H17～R5)」／大分県「合計特殊出生率(5年平均)、市町村・年次別(H17～R5)」)

- 本市における25～29歳の未婚率の推移を見ると、2015年から2020年にかけて、**男女ともに10%以上の劇的な増加**を示している
- 近年、**20代後半の若い世代の結婚が急激に減っている**ことがわかり、これがここ数年において出生率が急降下した一因と考えられる

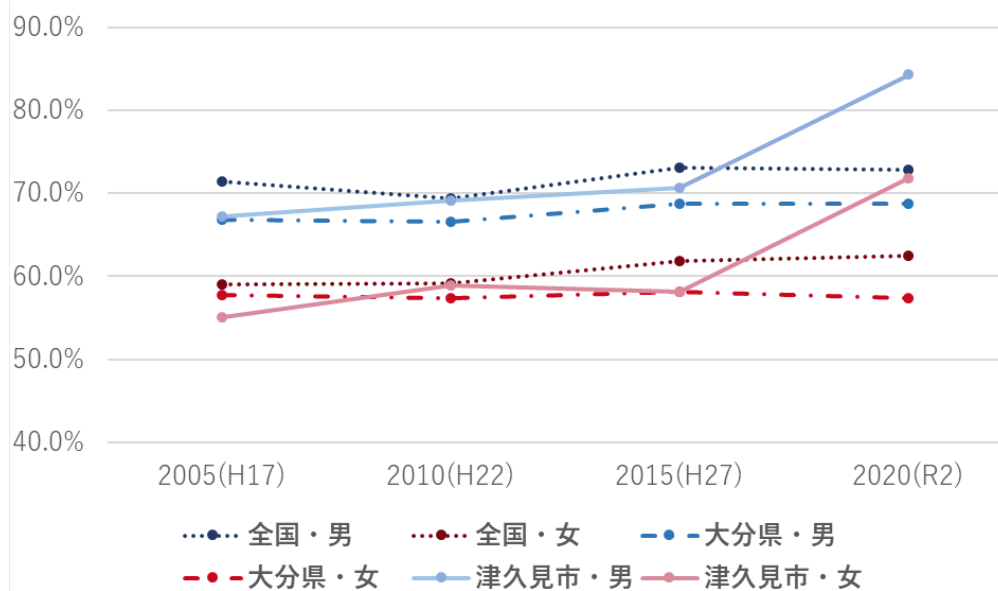


図4 津久見市における25～29歳の未婚率の推移
(出典：総務省「国勢調査(H12～R2)」)

III. 大分県内でも顕著な社会減の傾向

- 本市における人口千人あたりの社会減は**大分県内で最も大きく**、津久見市から他地域への**転出超過**の傾向が大きいと言える

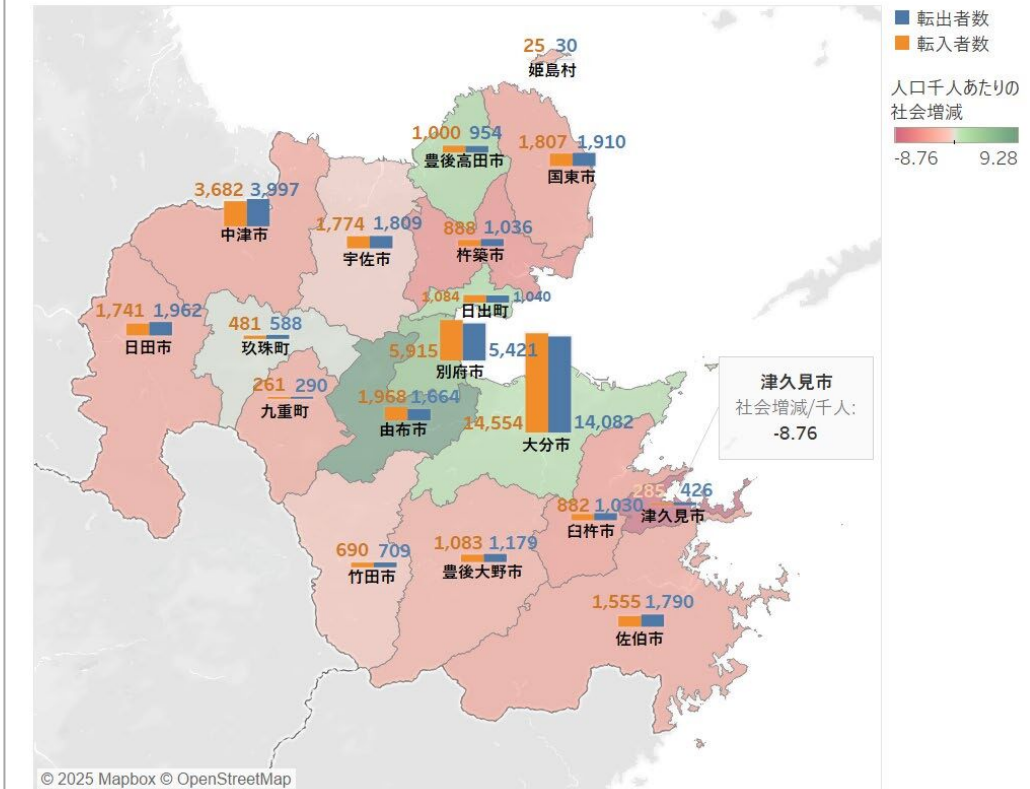


図5 大分県内の市町村における前年からの社会増減
(出典：大分県「大分県の人口推計【年報】(R6)」)

- 年齢別の純移動数を見ると、**就学・就職等による20代前後の転出や子どもを連れた30代前後の家族の転出**が多いことがわかる

※ 純移動数 = 転入者数 - 転出者数

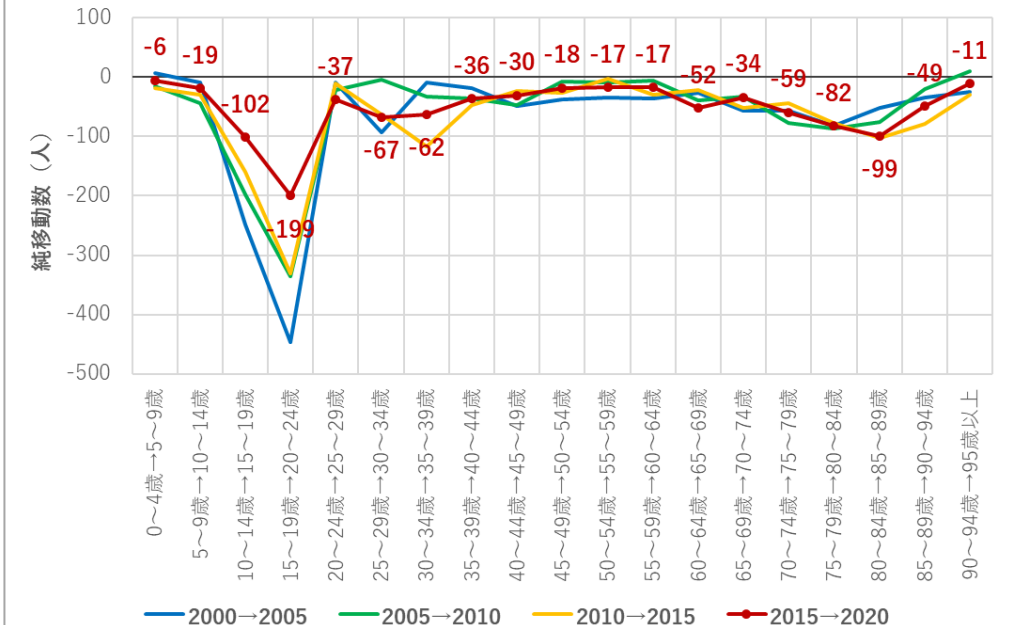


図6 津久見市における純移動数の推移
(出典：総務省「国勢調査(H12～R2)」／厚生労働省「市区町村別生命表(H12～R2)」)



- 自然減について：出生率・未婚率を改善するための対策を講じることが重要
- 社会減について：20～30代の若い世代を中心とした人口流出の食い止めを図ることが必要